

印度藝術總覽

A GENERAL VIEW OF  
INDIAN ARTS



第三卷第三輯

Issued by The Society for Study of Indian Arts  
Tokyo



始



# 印度藝術總覽

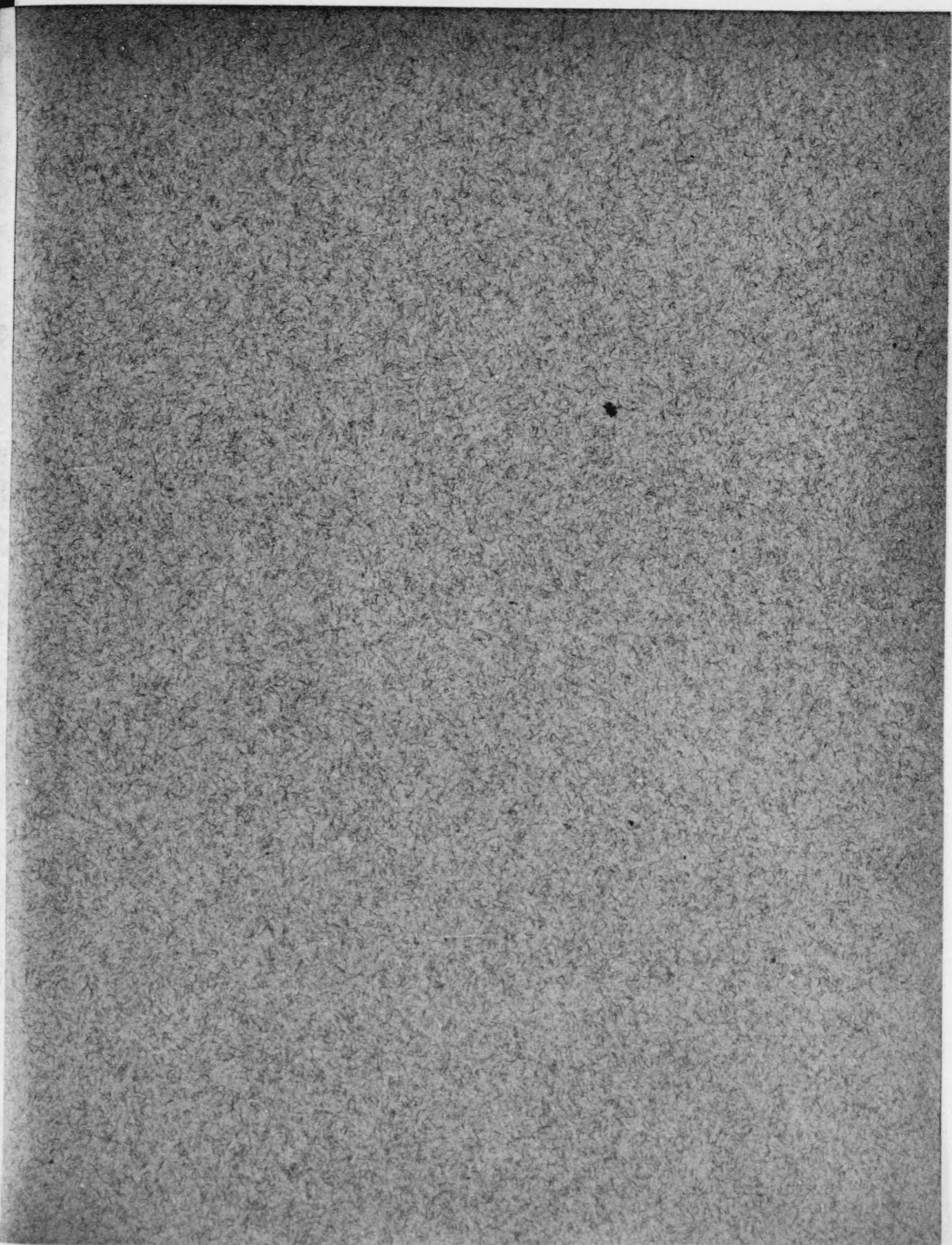
A GENERAL VIEW OF  
INDIAN ARTS



第三卷 第三輯

Issued by The Society for Study of Indian Arts

Tokyo



「印度藝術總覽」内容一覽

(第三卷第三輯附一)

東京	東京美術學校	東京	日印協會
東京	田島帶三殿	東京	楠谷洗鱗殿
東京	正木直彦殿	東京	前原藤一郎殿
東京	成田山新勝寺殿	東京	荒井寛方殿
東京	野生司香雪殿	東京	井上利正殿
東京	多賀道吉殿	東京	小笠原長生殿
東京	信濃川護立殿	東京	勝田蕉琴殿
東京	津端道彦殿	東京	勝田瑞超殿
東京	沼田才治殿	東京	石崎光瑤殿
東京	寺崎廣載殿	東京	山上曹源殿
東京	中野觀象殿	東京	櫻井義肇殿
東京	松本三郎殿	東京	原文次郎殿
東京	小林辨吉殿	東京	郷倉千穂殿
東京	青木新太郎殿	東京	長谷川昇殿
東京	權藤林藏殿	東京	遠山五郎殿
東京	藤林藏殿	東京	木村龍寛殿
東京	高橋松次郎殿	東京	在印度

第二卷第十一輯乃至第三卷第三輯目次

五二、佛像	アジヤンク一壁畫	彩色木板	楠谷洗鱗君模寫
五三、三神一體像	エヒンソク洞窟石彫	寫真版	印度藝術研究會寫藏
五四、女神	古代石彫	寫真版	別所幸吉君藏
五五、歌舞供養其二	佛陀伽耶發掘石彫	寫真版	カハルカツタ博物館藏
五六、公子	莫臥兒朝繪畫	彩色木板	楠谷洗鱗君藏
五七、太子出城	佛陀伽耶發掘石彫	寫真版	カハルカツタ博物館藏
五八、歌舞供養其一	佛陀伽耶發掘石彫	寫真版	楠谷洗鱗君藏
五九、涅槃	古銅鑄金	寫真版	伊尾準君藏
六〇、クランニヤ寺	印度教寺院	寫真版	印度藝術研究會寫藏
一、雪山修業繪卷其一	ネパール採取	彩色木板	高楠順次郎君藏
二、醉象調伏	佛陀伽耶發掘石彫	寫真版	カハルカツタ博物館藏
三、印度更紗(一)	ラクノ一産	彩色版	楠谷洗鱗君藏
四、舞踊之涅槃	エロラ洞窟石彫	寫真版	堅山南風君攝影
五、水瓶	鍍金銀象嵌	寫真版	伊尾準君藏
六、樂之	莫臥兒朝繪畫	彩色木板	岡田三郎助君藏
七、菩薩	鍍金鍍金	寫真版	松本三郎君藏
八、靈塔玉垣	佛陀伽耶石彫	寫真版	堅山南風君攝影
九、歌舞供養其三	佛陀伽耶發掘石彫	寫真版	楠谷洗鱗君藏
一〇、聖牛	アジヤンク一壁畫	寫真版	楠谷洗鱗君模寫
一一、雪山修業繪卷其二	ネパール採取	彩色木板	高楠順次郎君藏
一二、正覺印佛陀	佛陀伽耶發掘石彫	寫真版	楠谷洗鱗君藏
一三、印度更紗(二)	ラクノ一産	彩色木板	岡田三郎助君藏
一四、靈塔と門欄	サントー建築	寫真版	堅山南風君攝影
一五、佛手	鹿野苑發掘石彫	寫真版	楠谷洗鱗君藏

(同不存類) 名芳家藏所品載掲

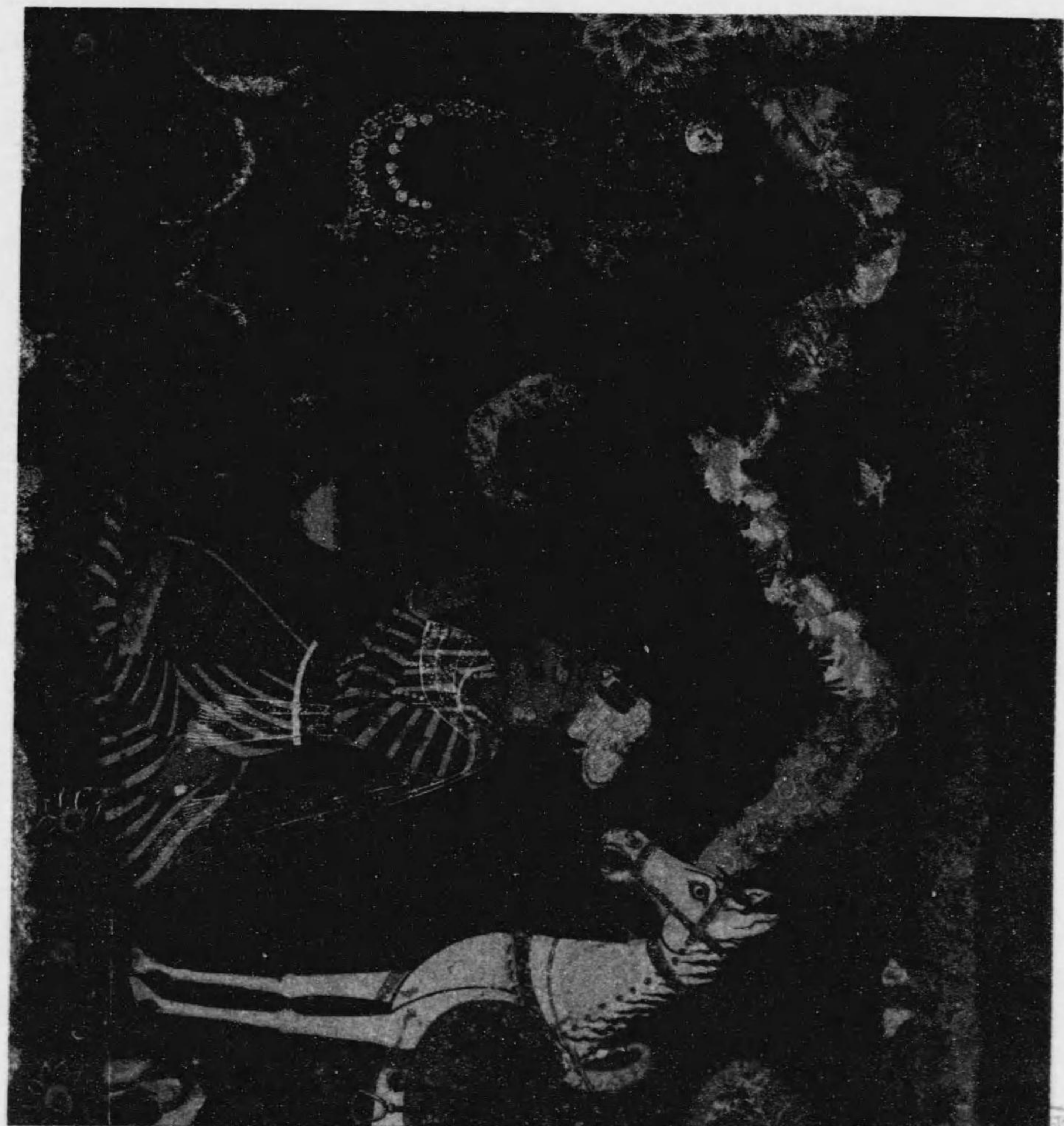
第一卷第十輯目次

五二、公	子	莫臥兒朝繪畫	彩色木板	楠谷洗鱗君藏
五三、太子出城	佛陀伽耶發掘石彫	寫真版	カハルカツタ博物館藏	
五八、歌舞供養其二	佛陀伽耶發掘石彫	寫真版	伊尾準君藏	
五九、涅槃	古銅鑄金	寫真版	伊尾準君藏	
六〇、クランニヤ寺	印度教寺院	寫真版	印度藝術研究會寫藏	
一、雪山修業繪卷其一	ネパール採取	彩色木板	高楠順次郎君藏	
二、醉象調伏	佛陀伽耶發掘石彫	寫真版	カハルカツタ博物館藏	
三、印度更紗(一)	ラクノ一産	彩色版	楠谷洗鱗君藏	
四、舞踊之涅槃	エロラ洞窟石彫	寫真版	堅山南風君攝影	
五、水瓶	鍍金銀象嵌	寫真版	伊尾準君藏	
六、樂之	莫臥兒朝繪畫	彩色木板	岡田三郎助君藏	
七、菩薩	鍍金鍍金	寫真版	松本三郎君藏	
八、靈塔玉垣	佛陀伽耶石彫	寫真版	堅山南風君攝影	
九、歌舞供養其三	佛陀伽耶發掘石彫	寫真版	楠谷洗鱗君藏	
一〇、聖牛	アジヤンク一壁畫	寫真版	楠谷洗鱗君模寫	
一一、雪山修業繪卷其二	ネパール採取	彩色木板	高楠順次郎君藏	
一二、正覺印佛陀	佛陀伽耶發掘石彫	寫真版	楠谷洗鱗君藏	
一三、印度更紗(二)	ラクノ一産	彩色木板	岡田三郎助君藏	
一四、靈塔と門欄	サントー建築	寫真版	堅山南風君攝影	
一五、佛手	鹿野苑發掘石彫	寫真版	楠谷洗鱗君藏	

大正十三年四月二十日

印度藝術研究會

大正十三年四月二十日 購求





四



取模於一〇一〇年 攝於北平 北京美術師範學校 攝於北京 攝於北京 攝於北京 攝於北京

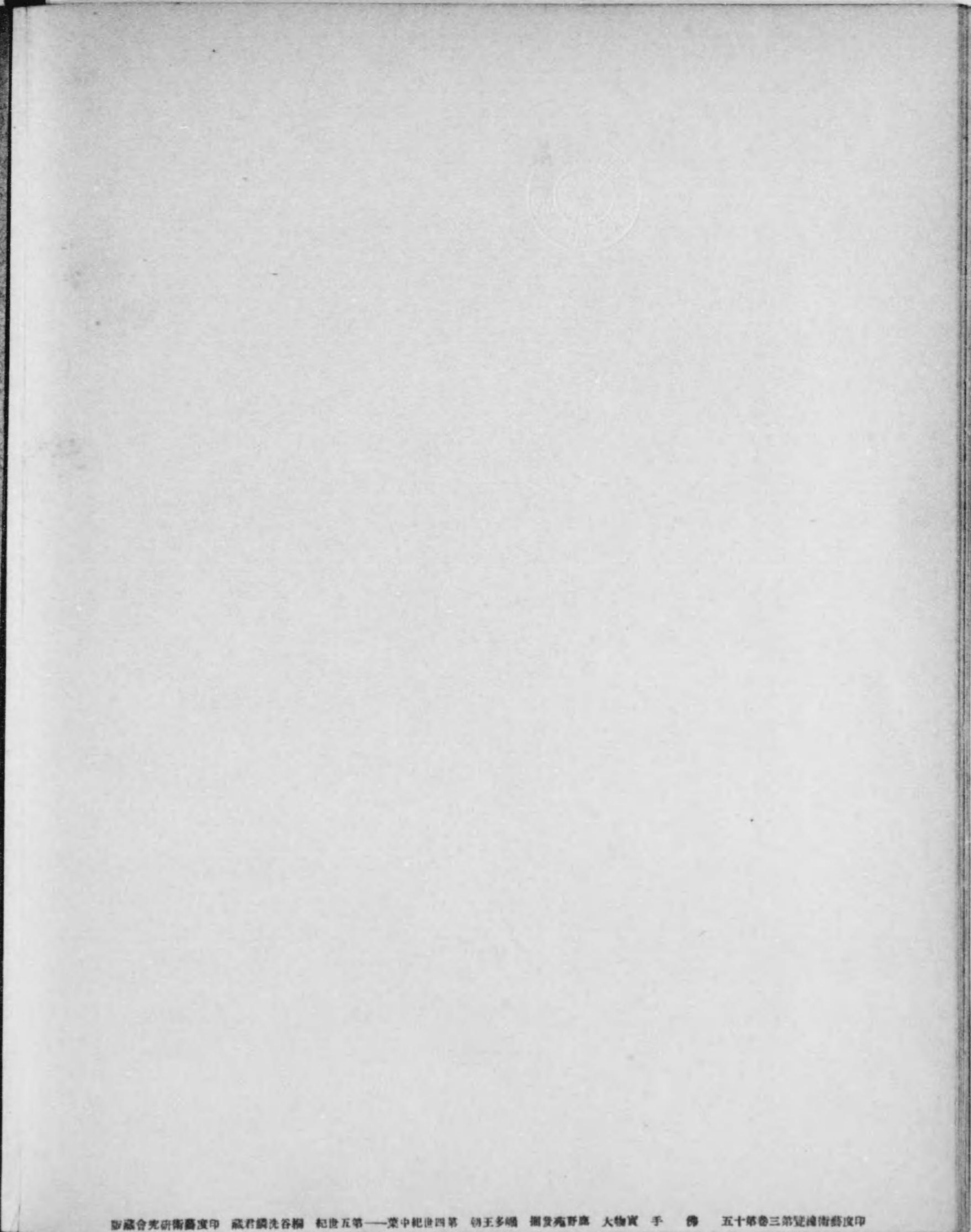
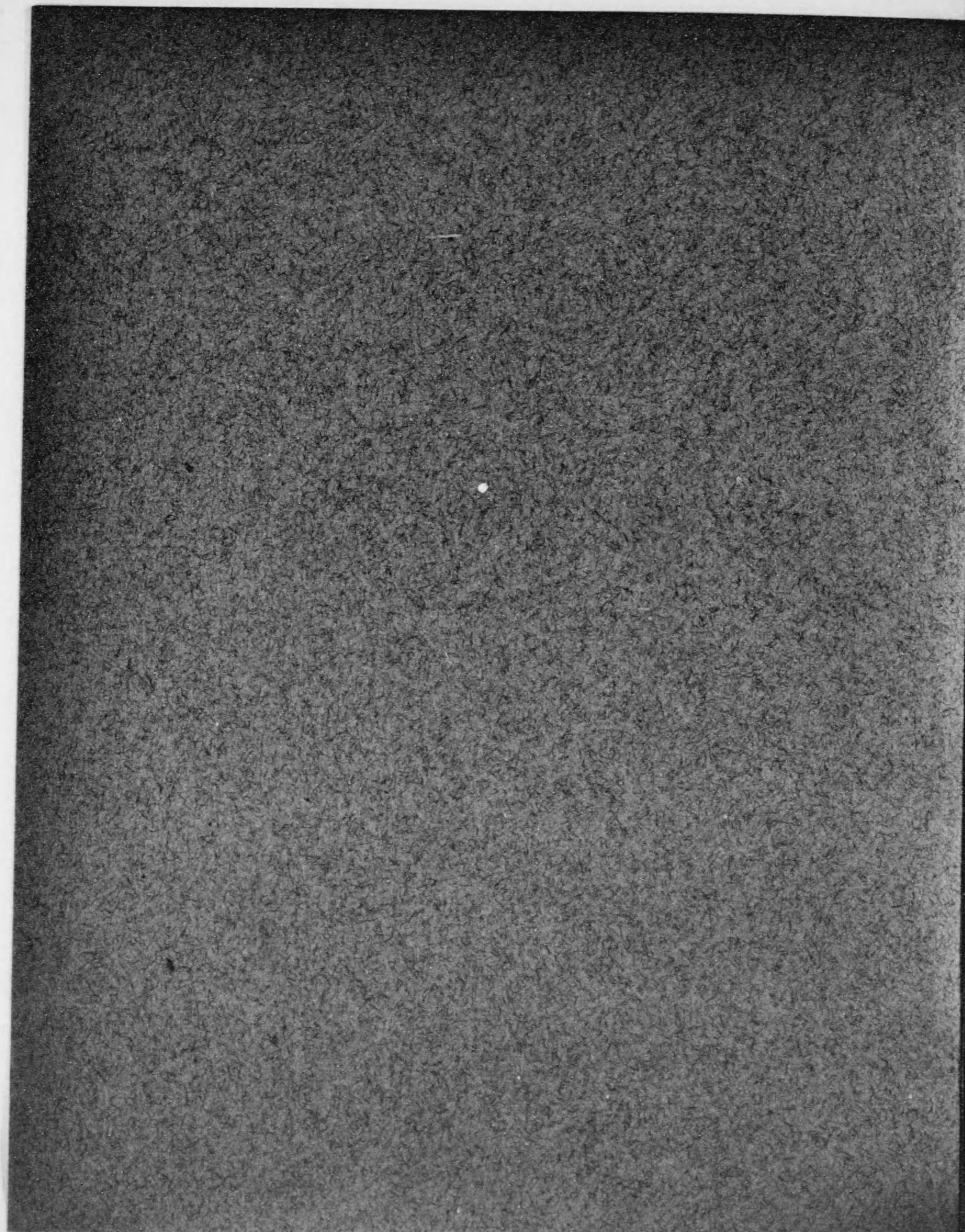




© 1933







印度藝術總覽第三卷第三輯目次及說明

第十一 雪山繪卷(其繪畫文學)

本卷第一に攝婆重の連綿部、高橋博士談、此圖は雪山の道場に於ける出来事なるべし。設馬を幸ひて來遊せるは回教徒の風貌を具し、供養の食器を獻げて合掌せるもの如し。之れに對せるは濕婆天なるべく、熊の如き黒色の獸皮に坐し、棍棒を膝上に置き、胡帽を被り、華蓋を佩べり。口中より釣糸を含める黃魚を繰出せるは天の幻力を示せるものか。或は是れ魚王神話に因るものなるべきか。解讀其要を得ざるを遺憾とす。

第十二 正覺印佛陀(石彫)

佛陀印佛陀、第四世紀中葉乃至第五世紀、多王朝作、高さ二尺一寸。佛陀印佛陀正覺の聖跡なれば、發掘佛陀は正覺印多し。此像は眉目の端鬚鬚なる點、殊に眉毛が相通じて一線となり居る點、及び透き通るが如き羅鏡を羅ふ點等に於て、佛陀の體式を離れて純印度式に發達したるものたるを知るべし。其他光背の代りに菩提樹を模倣して彫刻し、又繁那羅、迦陵頻伽等を配して天が正覺を風して奏樂するの趣を現はし、又蓮座の代りに金剛座を作り、上に吉祥草を敷きて結跏趺坐し、座下に大衆、獅子等を彫刻して靜坐靜習に達する不動の地點たるの意を示す等、幾多佛與聖迹の事實が現はされり。同時代の作品の最も完全に保存せられたる一例とす。

第十三 印度更紗(三)

ラグナール産、模倣は獅子と孔雀、獅子の作品は彫刻に於てはサンチの發掘品、鹿野苑の紀念石柱、其他に於て非常に進歩したるものを見るが、此模倣の獅子は其等と行方を異にし、多く意匠を凝らさず、一種雅氣を帯びたる中に面白味あり、而して之れに自在に孔雀を配して更に雅味を豊かにらしむ。其意匠の

第十四 靈塔と門闕(建築)

靈塔と門闕、堅山南風君撮影、用材砂石、塔(スチーパ)石門及び石欄、紀元前二世紀の作にして、煉化或は石を以て築かれ、又は地中に建てる。佛の遺體を安置するに用ひたる。印度最古の建築に於て、これに保存せられたる一にして、本圖建築は、全而精巧な彫刻を以て覆はれ、其時代の宮廷或は世俗の生活を詳細に描寫しあり。最も貴重なる造物の一とす。

第十五 佛手(石彫)

佛手、寫真版、實物大、桐谷洗鱗君藏、鹿野苑のサンチト、發掘。第四世紀中葉乃至第五世紀、多王朝初期の作、用材砂石、赤味を帯ぶ。此佛手彫刻は皆之れと同一石質なり。同地は佛陀が初めて說法したる聖跡なれば、發掘佛手は多くは說法印なるに、之れは珍しく、寫真版印佛の手なり。彫刻藝術が純印度式に發達したる時代の一例にして、ふつくり柔らかく感じよく出来居り、好研究資料と思はる。

疊紙意匠 樂人 錫倫島古代模倣

大正十三年四月二十日印刷

大正十三年四月廿五日發行

發行所 友田寛治

發行所 東京市小石川區金富町十四番地

發行所 東京市小石川區金富町十四番地

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

發行所 印度藝術研究會

印度藝術總覽第三卷第三輯目次及說明

第十一 雪山繪卷(梵文書)

本卷第一に繪畫藝術の進歩を論じて、高橋順次郎君の遺稿に於ける出来事なるべし。其書を幸ひて読めば、雪山の雄姿を彷彿とせし、其書の全體を讀んで合掌せざるべし。此の繪卷は、雪山の雄姿を彷彿とせし、其書の全體を讀んで合掌せざるべし。此の繪卷は、雪山の雄姿を彷彿とせし、其書の全體を讀んで合掌せざるべし。

第十二 正覺印佛陀(石彫)

第四世紀中葉乃至第五世紀初葉の王廟作、高橋君の遺稿に於ける出来事なるべし。其書を幸ひて読めば、雪山の雄姿を彷彿とせし、其書の全體を讀んで合掌せざるべし。此の繪卷は、雪山の雄姿を彷彿とせし、其書の全體を讀んで合掌せざるべし。

第十三 印度更紗(石彫)

同田三郎助君の遺稿に於ける出来事なるべし。其書を幸ひて読めば、雪山の雄姿を彷彿とせし、其書の全體を讀んで合掌せざるべし。此の繪卷は、雪山の雄姿を彷彿とせし、其書の全體を讀んで合掌せざるべし。

第十四 鑿塔と門欄(石彫)

鑿塔にして東洋に於ける、其に印度特有の技術に屬す。其書を幸ひて読めば、雪山の雄姿を彷彿とせし、其書の全體を讀んで合掌せざるべし。此の繪卷は、雪山の雄姿を彷彿とせし、其書の全體を讀んで合掌せざるべし。

第十五 佛手(石彫)

高橋君の遺稿に於ける出来事なるべし。其書を幸ひて読めば、雪山の雄姿を彷彿とせし、其書の全體を讀んで合掌せざるべし。此の繪卷は、雪山の雄姿を彷彿とせし、其書の全體を讀んで合掌せざるべし。

大正十三年四月二十日印刷  
大正十三年四月廿五日發行  
製 許 不  
發行所 友田寛治  
印度藝術研究會  
東京市小石川區金町十四番地  
東京市小石川區金町十四番地  
東京市小石川區金町十四番地

終